

平成 29 年 11 月 10 日

日本スポーツ雪合戦選手会

公開質問状

私たち日本スポーツ雪合戦選手会は雪合戦界がひとつになることを願い、地域や所属の組織に偏らず 8 月に全国の発起人有志により設立しました。現在も当会への参加チームを増やしております。

僭越ではございますが、この度は多くのチームが事情を知らない事として質問状を送付させていただきます。

もともと一つであった連盟組織が分裂した経緯はともかく、私たちには現在の二つの雪合戦組織がひとつになれない理由がわかりかねます。この点について両組織への質問として下記の回答をお願い致し
たくお尋ねします。

【質問： 現在の雪合戦組織がどうしたら、ひとつになる事ができるのか。】

組織としてのお考えを 2017 年 11 月 30 日までに回答頂けるよう何卒よろしくお願い申し上げます。

要 望 書

一般社団法人 国際雪合戦連合 御中

平成 29 年 11 月 10 日
日本スポーツ雪合戦選手会

「組織の違いから発生しているルールの相違点について。」

私たち日本スポーツ雪合戦選手会は、現在二つの組織で異なる雪合戦ルールが少しずつでも一本化へ歩みよることを希望します。異なるコートサイズ、ルールでの大会開催は普及における弊害でしかなくことは明白です。選手会として以下の内容について要望をします。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

- 一、 「異なる雪合戦ルールの一本化への歩み寄り、統一ルールの実現」
- 一、 「世界雪合戦連合、ルールガイドライン改正点についての矛盾」

11月1日付けで確認されたガイドラインについて選手会の意見として要望させていただきます。改正点は理解し、決定であれば従わざるを得ません。

今回のイエローカードの対象の追加「アウトになった選手が意図的に補給する行為」については違反行為への抑止力としての狙いであると理解もできますが選手の視点で見るとレッドの対象で無いのであれば、反則行為でイエローを受けようが勝利の為に一度であれば補給行為までした方が得策であると判断できます。例えば、ポイント負けている3セット目、逆転の可能性がある中で選手はチームイエロー1枚がでて、アウトになっても補給を行う選択を一度なら行うということです。この点はもともと日連同様のルールであったと思いますが、前回の「持って出る」の改定指針もあり選手にとっては混乱していた点です。置くのが違反行為でないのであれば「アウト選手はその場に雪球を置いてコート外に出る」で意識統一されているというのが選手会の認識です。

「その場に置く」を前面に徹底するのが抑止力となるのが、イエローと記載されることで、やる事を想定させてしまうという点です。

僭越ではありますが、組織が統一されていない中でそれぞれの組織が独自のルール改定を行う事は雪合戦界において正しい選択とは思えません。

選手の総意として両組織の一本化と併せて、まずはルールの一本化への歩みよることを要望致します。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

要 望 書

一般社団法人 日本雪合戦連盟 御中

2017年11月10日

日本スポーツ雪合戦選手会

「組織の違いから発生しているルールの相違点について。」

私たち日本スポーツ雪合戦選手会は、現在二つの組織で異なる雪合戦ルールが少しずつでも一本化へ歩みよることを希望します。異なるコートサイズ、ルールでの大会開催は普及における弊害でしかないことは明白です。選手会として以下の内容について要望をします。何卒よろしくお願い申し上げます。

一、 「異なる雪合戦ルールの一本化への歩み寄り、統一ルールの実現」

選手の総意として両組織の一本化と併せて、まずはルールの一本化への歩みよることを要望致します。何卒、よろしくお願い申し上げます。